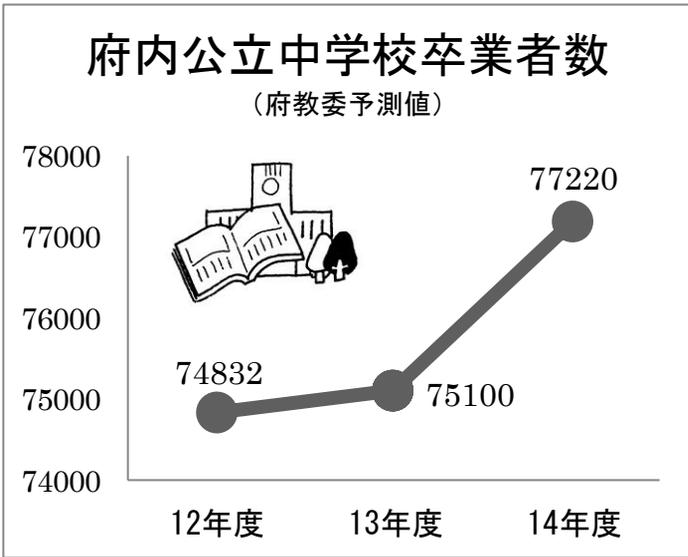
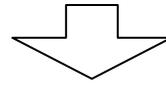


1 来年度入試、このままでは大量の不合格者が



<中学生が2120人増える>



必要な募集定員増は？

○計画進学率を(93.9%)として、

公私比率が、7:3では、**1394人**
(これまで)

35クラス

65.7:34.3では、**1308人**
(昨年度実績)

33クラス



2 生徒の心を深く傷つけた、公立高校2回入試

— 2万6000人が不合格 —

全国では

<和歌山> 07年度に導入したが、08年度で廃止。「受験生に、過度な心理的負担をかけないため」「大事な中学生生活最後の時期に、合格者と不合格者が混在することはクラス運営が難しい」

<静岡県> 03年度に導入し、07年度で廃止。「15歳の子にとって、前期不合格のダメージが大きく、教育的に見直し」

<埼玉県> 10年度に変更し、11年度で廃止。「中学・高校における教育活動の日程確保、1回入試であれば合格する受験生を前期で不合格としなければならない現状を改善するため」

<神奈川県> 04年度に導入し、12年度で廃止。「選抜期間の短期化、中学校での指導への影響を改善するため」

<茨城県> 特色選抜と一般選抜を同一日に実施へ、12年度で廃止。「中学校の授業時間を確保」

<岐阜県> 特色化選抜と一般選抜の2回実施を一本化へ、12年度で廃止。「選抜期間の短縮、特に、15歳という精神的に成熟しているとは言い切れない時期の受験生にとって、過度の心理的負担を強いることによる弊害は深刻であるため」

<青森県> 06年度に導入し、13年度で廃止。「不合格となった受験生の精神的負担を軽減するため」

<千葉県> 見直しへ検討中。「前期・後期の日程が近い、後期が敗者復活戦かのように、生徒が落ち着かず授業が成り立たない」

廃止・見直しだが、大きな流れに

子どもの声



○2回の試験が受けられても、募集定員が増えへんかったら意味がない。結局、落ちる回数が増えるだけ！

○チャンスが広がると思ったが、合格の可能性がほとんどないのなら自分たちには関係ない、ほとんど意味不明



親の声

○「受験のチャンスが増えた」と言うが、「合格の可能性が増えた」のかどうか？また受験のための費用(受験料や交通費など)も馬鹿にならない。

○私学入試と前期選抜と後期選抜との日程が短すぎて、落ち着いて判断できない。

教職員の声

○十分な懇談が持てない中、「前期入試はチャンスだから・・・」と安易に受験することを容認してしまい、大量の受験不合格を生み、子どもたちの心を傷つけた。

○何の意味もなかった。90%余りが全日制に進学する状況で、恣意的に普通科の定員を前期・後期に振り分け、前期選抜で大量の不合格者を出す制度に、どれほど教育的な意味があるのか

○2月の中学3年生の授業は殆ど成立せず、前期選抜を受験する生徒・受験しない生徒どちらも落ち着かず、前期受験科目にない理科や社会は軽視され、受験日が近づくこと、両科目の授業中に「英語」や「数学」の「内職」を行う生徒が急増した。

<一般入試を2回行っているのは、現在10県だけど……>